



子供の早期治療が大人での再発予防に

ゼンソク人間学



治療継続でつらい症状から解放を

西間馨先生

美少女スイマーから五輪メダリストに、そして現在はスポーツキャスターとして活躍する寺川綾さん。ミズノ・シリーズ「ゼンソク人間学」のお相手は西間三馨先生。現在の治療レベルでない時代からゼンソクの子供たちに寄り添い、治療・研究の進歩にも心を砕いてきた。水泳教室の「先輩」でもある先生のお話に寺川さんも感銘を受けた様子だった。

寺川 先生は小児ぜんそくに特化した治療ガイドラインを作成するなど、ぜんそくの子供たちに長年の貢献をされてきていますが、子供と大人のぜんそくに違いはありますか。

西間 ぜんそくは子供から高齢者まで発症しますが、一番多いのが小学生。そこからどんどん減っていきます。現在では、赤ちゃんでも風邪をひいたときにゼーゼー、ヒューヒューすると治療をします。治療薬などは大人も子供も同じものを使うなど、治療の基本的な部分は変わりません。専門医でなくても質の高い治療ができるよう、私たちが作った小児の治療ガイドラインには「学校生活での対応」など、大人のガイドラインには書かれていないものの、子供にとって必要な内容も入れています。

寺川 それはすばらしいですね。

西間 子供のぜんそく治療は重要です。早い時期から治療すると重症化せず、大人になってからも軽いまままで再発もしないケースが多いのです。ガイドラインの作成後、治療レベルが一気に上がりました。とはいっても、ぜんそくの人には症状がよくなくなると、お薬をやめてしまう人が多いのが悩みです。

寺川 私は、ぜんそく児童対象の水泳教室も行っていますが、先生は先駆的に水泳教室やサマーキャンプに取り組んでこられたとお聞きしました。

西間 寺川さんのような方が、ぜんそくであっても速く泳いでいるのは子供にとっていいお手本になります。私が医師になったころは今のようない治療法がなく、体力をいかにつけてあげるかということに力を入れました。当時、ぜんそくの子供は野外活動も宿泊もなかなかできない。だから医師らが付き添い、子供たちに夏を楽しくでもらおうと思いを立ちました。中でも水泳が気管支に最もよく、他の運動よりはるかに発作が起きにくいというところが分かり、それを続けるために当時、病院に温水プールを造ったのです。今は治療レベルが向上したので、自宅でも学校でも普通の生活ができるようになりましたが…。

寺川 子供たちは喜んでいただけそうですね。

西間 サマーキャンプの後にアンケートを取ると、「キャンプが終わってから、ぜんそくが軽くなった」と書いてくれる子どもいました。やってよかったと思っています。

寺川 みんなと一緒にやるのとモチベーションも上がりますね。治療を継続すること、仲間と一緒に頑張ること、その大切さを私も実感しています。

寺川 先生は小児ぜんそくに特化した治療ガイドラインを作成するなど、ぜんそくの子供たちに長年の貢献をされてきていますが、子供と大人のぜんそくに違いはありますか。

西間 ぜんそくは子供から高齢者まで発症しますが、一番多いのが小学生。そこからどんどん減っていきます。現在では、赤ちゃんでも風邪をひいたときにゼーゼー、ヒューヒューすると治療をします。治療薬などは大人も子供も同じものを使うなど、治療の基本的な部分は変わりません。専門医でなくても質の高い治療ができるよう、私たちが作った小児の治療ガイドラインには「学校生活での対応」など、大人のガイドラインには書かれていないものの、子供にとって必要な内容も入れています。

寺川 それはすばらしいですね。

西間 子供のぜんそく治療は重要です。早い時期から治療すると重症化せず、大人になってからも軽いまままで再発もしないケースが多いのです。ガイドラインの作成後、治療レベルが一気に上がりました。とはいっても、ぜんそくの人には症状がよくなくなると、お薬をやめてしまう人が多いのが悩みです。



国立病院機構福岡病院名誉院長

にしま・さんけい
1968年九州大学医学部卒業。国立療養所南福岡病院（現・国立病院機構福岡病院）院長、国立病院機構本部審議役などを経て現職。日本小児アレルギー学会と日本アレルギー学会の理事長のほか、2012～15年には福岡女学院看護大学学長も務めた

子供の治療向上に尽力

寺川 先生は小児ぜんそくに特化した治療ガイドラインを作成するなど、ぜんそくの子供たちに長年の貢献をされてきていますが、子供と大人のぜんそくに違いはありますか。

西間 ぜんそくは子供から高齢者まで発症しますが、一番多いのが小学生。そこからどんどん減っていきます。現在では、赤ちゃんでも風邪をひいたときにゼーゼー、ヒューヒューすると治療をします。治療薬などは大人も子供も同じものを使うなど、治療の基本的な部分は変わりません。専門医でなくても質の高い治療ができるよう、私たちが作った小児の治療ガイドラインには「学校生活での対応」など、大人のガイドラインには書かれていないものの、子供にとって必要な内容も入れています。

寺川 それはすばらしいですね。

西間 子供のぜんそく治療は重要です。早い時期から治療すると重症化せず、大人になってからも軽いまままで再発もしないケースが多いのです。ガイドラインの作成後、治療レベルが一気に上がりました。とはいっても、ぜんそくの人には症状がよくなくなると、お薬をやめてしまう人が多いのが悩みです。

寺川 私は、ぜんそく児童対象の水泳教室も行っていますが、先生は先駆的に水泳教室やサマーキャンプに取り組んでこられたとお聞きしました。

西間 寺川さんのような方が、ぜんそくであっても速く泳いでいるのは子供にとっていいお手本になります。私が医師になったころは今のようない治療法がなく、体力をいかにつけてあげるかということに力を入れました。当時、ぜんそくの子供は野外活動も宿泊もなかなかできない。だから医師らが付き添い、子供たちに夏を楽しくでもらおうと思いを立ちました。中でも水泳が気管支に最もよく、他の運動よりはるかに発作が起きにくいというところが分かり、それを続けるために当時、病院に温水プールを造ったのです。今は治療レベルが向上したので、自宅でも学校でも普通の生活ができるようになりましたが…。

寺川 子供たちは喜んでいただけそうですね。

西間 サマーキャンプの後にアンケートを取ると、「キャンプが終わってから、ぜんそくが軽くなった」と書いてくれる子どもいました。やってよかったと思っています。

寺川 みんなと一緒にやるのとモチベーションも上がりますね。治療を継続すること、仲間と一緒に頑張ること、その大切さを私も実感しています。

キャスターとしても活躍

てらかわ・あや
大阪府出身。近畿大学附属高校、近畿大学卒業。2004年アテネ五輪200m背泳ぎで8位入賞。12年ロンドン五輪では100m背泳ぎと4×100mメドレーリレーでそれぞれ銅メダルを獲得。今年からスポーツキャスターとして活躍。1児の母。ミズノ所属

寺川綾さん

